

奥利根 利根川本谷

小暮 他

【日時】2007年8月15日(水)～8月18日(土)

【メンバー】小暮(L)、藤岡、笹川、田村

1日目 8/15 晴れ

10:30に奥利根マリンの高柳さんの船で矢木沢ダムを出発。

高柳さんが、今日下山予定の佐貫さんから連絡がないとしきりに心配されていたので、携帯メールで既に沢は遡行済みであることを説明したが、本人から連絡がくるまでは安心できない様子。

お盆休み(8/11)に入ってから全く雨が降っていないので、手前で降ろされるのではと懸念していたが、お盆前に振った雨で、ほぼ満水状態だった。

船の上からは雪渓らしきものは確認できないが、高柳さん情報では上のほうは雪渓がかなり残っているとの事。利根川に近づくとヘリコプターの音が気になる。朝から何度も利根川本谷の上を飛んでいるようだ。

岸に辿りついた所で、缶ビールを発見。高柳さんから持ってけど田村さんに手渡される。

今日は越後沢出合までなので、のんびりと竿を出しながら進む。

イワナの魚影を2～3度見たものの、餌をつつくのはハヤばかり。釣りを楽しむのんびり山行なので釣らなきゃとみんな粘りに粘ったが結局誰も釣り上げることができず。枝沢に入っても坊主。

15時ごろにすれ違った釣り師も全然あたりがないということで、ようやく諦めがついた。

越後沢出合は快適な天場だったが、焚き木集めに苦労する。お盆前半パーティが残っていた木を集め、何とか一晩分を確保。

暗くなると満点の星空で、流星探しが楽しい。天の川も綺麗だった。

明日は釣れる事を祈って床につく。



2日目 8/16 晴れ

今日は計画によると滝ヶ倉沢出合まで、ゆっくり時間をかけて釣りをする予定であった。普通に歩けば、2、3時間で着いてしまうだろう。しかし、昨日の川の様子を見ると、どう見ても釣れそうな感じがしない。もちろん私の技量もあるだろう。しかし、何より魚がいない感じだ。かつて岩魚の宝庫といわれた川で、この現状は寂しい限りである。それに、今後天気が崩れそ

うなことを考えると、行ける時に先へ進みたいというのが正直な気持ちであった。

天場からまずは剣ヶ倉土合と呼ばれるゴルジュ帯。楽しめる範囲で突破できるが、増水したり雪渓が残っていたりしたら、お手上げという感じだ。しばらく行くと有名な「ヒトマタギ」だが、またげるところが他にもあり、ホントにここでいいのかなあ？と思いつつ、お決まり写真を互いに撮りあった。

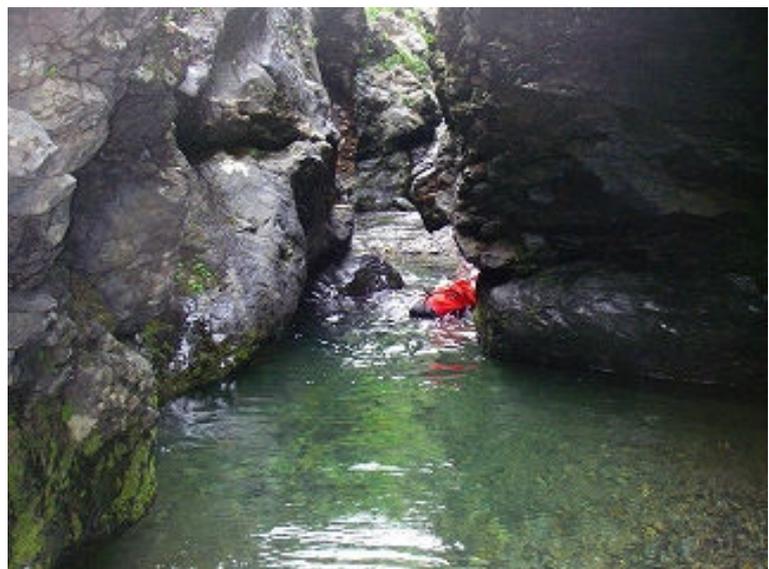
予定天場には 10 時に着いてしまった。ここまでも魚影は見られない。悩んだ末、先に進むこととした。ここからは本谷の核心と言われる「オイックイ」だ。ここまで幸いひとかけらの雪も見えていないが、本当にこの先、雪はあるのだろうか・・・？右へ左へ曲がりくねるゴルジュを進んでいくと、・・・ついに出た！最初のは一見安定していて潜れそうだ。小暮君がトップで行こうと一步踏み出したその瞬間、端の塊がものすごい音を立てて落ちこちてきた。



そんな大きいものではなかったけど、当たったらただじゃ済まないだろう。皆に緊張がみなぎる。無事潜り終えると、続いて崩壊した大きなブロックの隙間に行く。越後コボラ沢先の雪渓は右岸を巻き懸垂で下りた。その先も雪渓は 4 つほど出てきて、潜ったり上を行ったりした。ようやくオイックイを抜けると、定吉沢出合にいい天場を見つけ、今日の行動は終了とする。しかし、ここまで来ても、やっぱり魚はいなかった。(記: 田村)

3 日目 8/17 くもり

今日で三日目。オイックイは越えたがまだまだ先は長い。朝からゴルジュ地帯に入る。淵を持った小滝を巻いたり、へつったり、泳いだりして越えてゆく。長い廊下は泳いで通過するが、水量が少ないので少し泳ぐとすぐに足がついた。水量が多いとほんとうに苦勞すると思う。この先は兩岸が立ってきて 2 条の魚止め滝が現れ、右岸のふみ跡から巻く。しばらくすると出ました崩壊したブロック。ドロドロにな



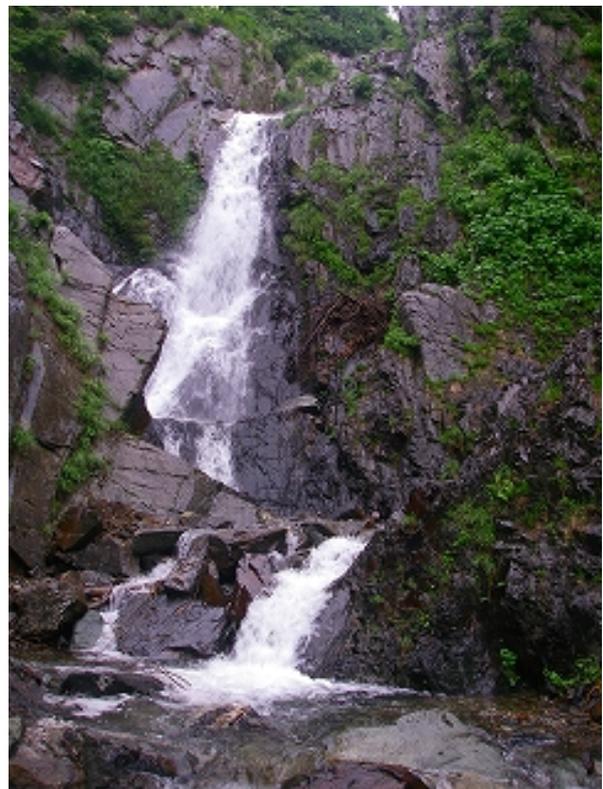
りながら左の壁との間をすり抜けてゆくと、こんどは20mほどのブリッジ。安定しているので順番に下をくぐる。小滝の向こうには冷気が漂っている。かなり大きなブリッジだが安定はしているようだ。ガスの合間からほんの少しだけ明りが見えたので、ヘッドランプをつけて真っ暗な中をくぐってゆく。私は二番目に入ったが真っ暗で先にいった小暮さんの姿が見えない。右岸のルンゼに口が開いており、そこで小暮さんがコールしている。右側に本流が滝をかけているようだが、怖くて立ち止まって見る余裕がなかった。全員ルンゼ下に集合する。右側のルンゼを少し上に上がるとさらに右と左に分かれている。左の泥ルンゼを上がれそうに見えたので私が空荷でロープを引いて取り付いた。5mくらい上で怪しげなハーケンを打った後は何も無い泥壁をバイルを効かせて登って行く。上がるにつれ傾斜は強くなり後悔しはじめるが降りるわけにもゆかないので仕方なく一步一步確かめながら登ってゆく。右上してなんとか灌木帯まで上がることができた。荷揚げはできないので最後に降りてもう一度登り返す。私のザックは泥ルンゼの中をザイルの端でブラブラぶら下がっており、元の色がわからないくらいに茶色に染まっていた…。丹後沢出合の雪渓は巨大なので上に乗る。100mくらい歩いて右岸側をなんとか懸垂せずに降りることができた。小滝を越えていよいよ大利根滝だ。遠めにはかなり迫力があるが、近づいて見ると意外に登りやすそうだ。用を足している間に早くも小暮さんが半分くらい登っている。フォローするが高さがあるのでザックをしょっているとやっぱり怖い。しばらく進んで東小沢出合の右岸にツエルトを張った。この夜は田村さんと一緒に焚き火の横で気持ちよく寝ることができた。

4日目 8/18 雨

昨日からの雨はやまずポツポツと降り続けている。今日はハイライトの大きな滝を幾つか越えて稜線に抜ける日だ。雨の中の遡行は残念だが仕方ない。

歩き始めてすぐに、小さな滝が出てくる。それほど難しいところはなく、楽しく越えていく。しばらく進むと10mの滝。結構な水量を落としており、左岸から巻くことも出来そうだったが、雨でぐずぐずとなった草付を巻き上がるのもそれなりに大変そうである。よくルートを見ると、右岸のリッジ状の草付をあがってバンドをトラバースすればなんとか登れそうだ。ザイルを出して空荷で登る。後続はフィックスロープをたよりに登るが、微妙な足場と嫌らしいトラバースであった。

続いて人參滝の登場。なかなか見ごたえのある滝が続く。ここは左岸に明瞭な巻き道があるので、リッジ状を登って巻き道に従う。そして深山滝である。ここは豪快に水を岩溝から落としている。右側の壁は段々になって



いるので、中段まで登ってからザイルを出します。スタンスの間隔がやや遠いが楽しめる滝だ。落ち口のところが足場が無くて嫌らしい。

赤沢滝はシャワークライミング。4段 20mだ。トイ状の細かいホールドを拾って登り、上部は水の流れの裏側に回り、シャワーを浴びながら上に抜けた。アクアステルスの靴の藤岡さんはヌメッて怖かったとか。

これで大きな滝は終わり、小滝がいくつかあるだけだ。次第に源頭の雰囲気となる。雪渓を上から越えて、水量の多い沢を忠実に詰めると最後の分岐があり、両方ともに雪田となっている。我々は水量の多い右に抜けたが、左がいわゆる三角雪田であったと思う。三角雪田は傾斜があつてやや緊張したが、スプーンカットとなっている雪面をうまく拾って上に出た。



特に藪漕ぎもなく稜線に飛び出す。

稜線は雨と風でちょっと寒い。少し進むと利根川水源碑だ。なかなか感慨深い。丹後山非難小屋で一息ついて、スパイク足袋を履く。あとは登山道を一目散に下るだけだったが、滑りやすい道はスパイク足袋が有効だった。

林道をだらだらと歩いて、十字峡に着いたのは17時をまわっていた。できればタクシーと電車を乗り継いで車を置いている湯檜曾駅まで行きたかったが、上越線は電車の本

数が少なく、今日中にはたどり着けない。今夜は、十字峡の売店の上で泊まりかなと準備していたが、親切な釣り師の方に素泊まりの安い宿を教えていただいた。携帯はAUが何とか通じ、タクシーで五十沢温泉(旧館)へ。なんとここが素泊まり2200円。十字峡の売店2階が1泊1000円なので、温泉にも入れるのだから大満足だ。近くの食堂でビールで乾杯。素晴らしい夏休みを締めくくった。(記:小暮)

【行程】

8/15 奥利根湖バックウォーター(10:50)～又右衛門ヶ淵(13:15)～巻淵(15:10)～越後沢出合 c.1(15:50)

8/16 c.1(6:30)～剣ヶ倉沢出合(6:50)～牧ヶ倉沢出合(8:40)～滝ヶ倉沢出合(10:20/40)～越後コボラ沢出合(11:20)～上北沢出合(12:35)～裏越後沢出合(13:50)～定吉沢出合 c.2(14:45)

8/17 c.2(7:10)～喜代志沢出合(8:05)～丹後コボラ沢出合(13:25)～深沢出合(15:00)～佐市平 c.3(15:35)

8/18 c.3(7:20)～深山滝上(11:35)～水上滝上(12:40)～稜線(13:40)～丹後山非難小屋(14:10/40)～林道(16:50)～十字峡(17:35)

【地図】奥利根湖、尾瀬ヶ原、平ヶ岳、藤原、兎岳

【グレード】4級

